バスと津軽鉄道のローカル旅

津軽半島の冬を見る・食す・遊ぶ

青森県の奥津軽いまべつ駅へは東京から東北・北海道新幹線で約3時間40分。本州最北の新幹線駅からは便利な路線バスを使って、ストーブ列車やスノーシュートレッキングなど、奥津軽の冬を存分に楽しもう。

取材・文・撮影＝平沢千秋

北海道新幹線と津軽鉄道を結ぶ便利なバス

奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅と津軽鉄道津軽中里駅間の34kmを約1時間10分で結ぶ、弘南バスの路線バス。奥津軽いまべつ駅を旅の起点にすると、金木方面や十三湖エリアへのアクセスに便利。

●☎0173･35･9121(弘南バス五所川原駅前案内所)／1日4往復8便運行、無休／1200円(降車時に支払※現金のみ)

津軽鉄道接続　津軽中里駅	着	7:44	11:11	13:27	17:30
津軽中里駅前 ➡ 奥津軽いまべつ駅前		1便	3便	5便	7便
津軽中里駅前	発	8:45	12:10	14:10	17:35
奥津軽いまべつ駅前	着	9:55	13:20	15:20	18:45
北海道新幹線接続　新函館北斗方面(下り)		10:08	13:47	17:01	19:01
奥津軽いまべつ駅　東京方面(上り)		10:22	13:35	15:35	19:27
奥津軽いまべつ駅前 ➡ 津軽中里駅前		2便	4便	6便	8便
奥津軽いまべつ駅前	発	10:40	14:00	15:45	19:40
津軽中里駅前	着	11:50	15:10	16:55	20:50
津軽鉄道接続　津軽中里駅	発	12:00	15:21	16:57	20:55

雪深くなる奥津軽を、安全で効率的に移動できる強い味方

郷土の食と祭りを味わう

北海道新幹線
奥津軽いまべつ駅

具だくさんのもずくうどん550円とぽたん鍋定食1200円

道の駅いまべつ「半島ぷらざアスクル」

奥津軽いまべつ駅と津軽二股駅に隣接し、今別町の観光情報が手に入る。レストランや物産コーナーがあり、地元特産の石もずくを練り込んだもずくうどんや、「奥津軽いのしし牧場」直送の猪肉料理が名物。

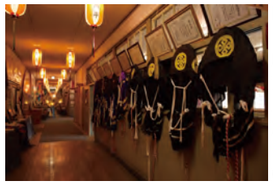
●☎0174･31･5200／9:00～19:00(レストラン10:00～15:00LO)、無休／青森県東津軽郡今別町大川平清川87-16／北海道新幹線奥津軽いまべつ駅から徒歩2分

もずくうどんはお土産も人気。2食入り390円

荒馬の里資料館

毎年8月上旬、扇ねぶたの山車とともに、今別町に伝わる「荒馬踊り」で町を練り歩く「荒馬まつり」。男女が組んで跳ねることから“縁結びの祭り”とも呼ばれる。資料館では荒馬踊りの見学や体験(有料・要予約)ができる。

●☎090･4311･4314(嶋中)／10:00～15:00、11～3月休(11～3月に見学希望の場合は要連絡)／無料／青森県東津軽郡今別町大川平熊沢67／北海道新幹線奥津軽いまべつ駅から車7分



旧大川平小学校を利用した施設。廊下や教室には荒馬の衣装(写真上)、体育館には扇ねぶたの山車(写真下)・大太鼓などを展示している

津軽中里駅前

津軽鉄道

津軽中里駅～津軽五所川原駅間の20.7kmを約40分で結ぶ。冬期限定のストーブ列車以外は「走れメロス号」が運行。地吹雪の里として知られる川倉駅や桜が美しい芦野公園駅など、一年を通して旅情あふれる駅がいっぱい。

●☎0173･34･2148／津軽中里駅～芦野公園駅350円(所要時間11分)、芦野公園駅～金木駅170円(所要時間3分)、金木駅～津軽五所川原駅550円(所要時間20分)

雪原の中を走る津軽鉄道

アテンダントさんの津軽弁による案内は必聴。スルメ500円を購入すれば、ストーブの上で香ばしく焼いてもらえる

冬だけのイベント列車に乗ろう!

ストーブ列車

1日3往復(12月の平日は2往復)のみの、12～3月限定の名物列車。ダルマストーブの周りには客が集まり、のんびり語らう憩いの場となる。乗車券170～850円のほかにストーブ列車券400円が必要。津軽中里駅からは12:55発と15:21発がある。

道中、車掌さんが手際よく石炭を補充する

津軽半島の旅は今別町での腹ごしらえからスタート。道の駅いまべつ「半島ぷらざアスクル」でいただいたのは、地元の食材を使ったもずくうどん。磯の香りが豊かな麺に、イカメンチや鶏肉、とろろ昆布などをトッピング。具だくさんなうどんで体を温めよう。

奥津軽いまべつ駅前からバスに乗車し、津軽鉄道に乗るべく津軽中里駅へ。冬は道路がシャーベット状になるため、安心して移動できるバスがあるのはありがたい。津軽鉄道は津軽中里駅を出発し、広大な津軽平野を走る。ストーブ列車が走る1～3月頃の車窓に映るのは、田畑や点在する家々を雪が覆う真っ白な銀世界。雪以外何もない景色が、郷愁を感じさせとても美しい。

車窓を眺めているうちに芦野公園駅へ到着。ここではスノーシュートレッキングにチャレンジ。芦野公園の雪原をめぐるトレッキングは、奥津軽の冬の厳しさと美しさを体感できるはずだ。

芦野公園から1駅の金木は、太宰治の故郷。訪ねたのは、戦時中、疎開した太宰が妻子と暮らした「旧津島家新座敷」。当館主人・白川公視さんの丁寧な解説が心に響くと評判だ。「太宰と松本清張が同い年ってご存じですか」と白川さん。その言葉に、彼が生きた時代はそれほど昔ではないと気づく。

金木から終点・津軽五所川原までは6駅。ここは青森三大ねぶたの一つ、五所川原立佞武多が有名だ。「立佞武多の館」は、立佞武多が見られる施設であり、製作現場でもある。明治時代、高さ約20mあった立佞武多は、電灯線の敷設により5m程度に縮小。再び大きな立佞武多を復活させるため、立佞武多の館周辺の電線は地中に埋められた。祭りのためにそこまでする五所川原の人々の「やってまれ(やってしまえ)」精神には、感服させられる。

沿線では他にも津軽三味線の生演奏や、グルメに温泉など、楽しみはいろいろ。冬の奥津軽を訪ね、心を温めてはいかがだろう。